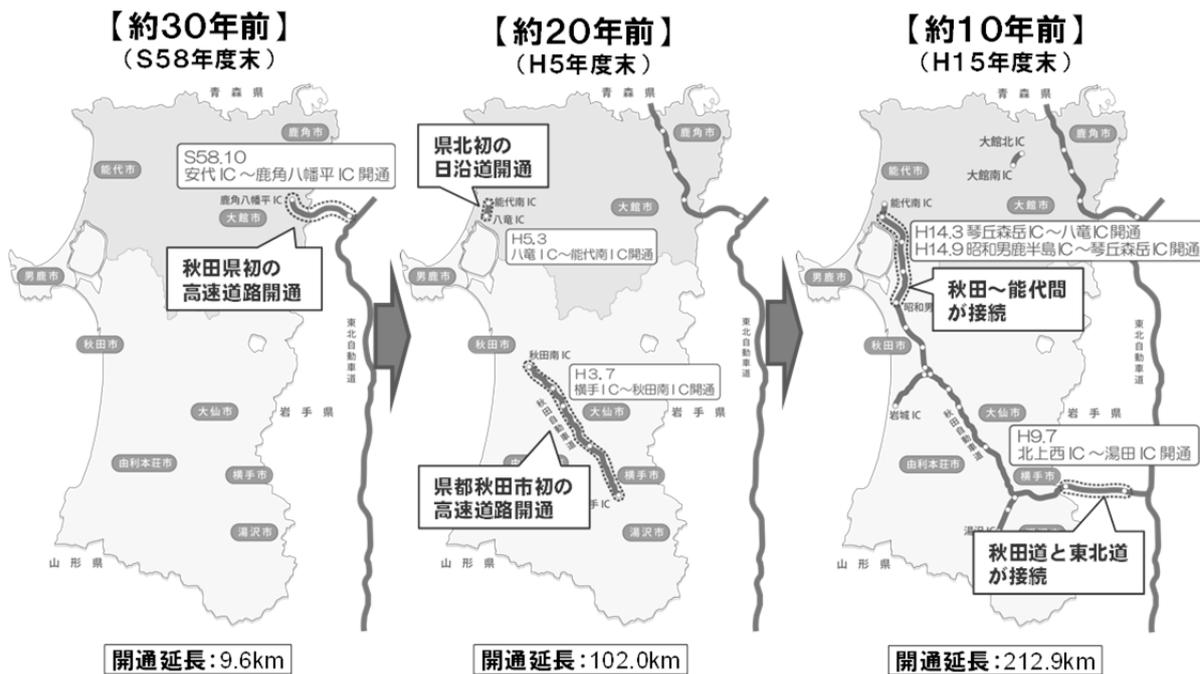


1. これまでの整備経緯

■立ち遅れている秋田県北地域の高規格幹線道路の整備

秋田県北地域の高規格幹線道路の整備は県内でも特に遅れています。秋田～能代間がつながったのは平成14年、大館と東北道とつながったのは平成25年のことです。現在も能代市二ツ井白神IC～大館市二井田真中IC間32kmは未開通の状況です。現在の県北地域整備率は64%であり、今も他地域より大きく立ち遅れています。

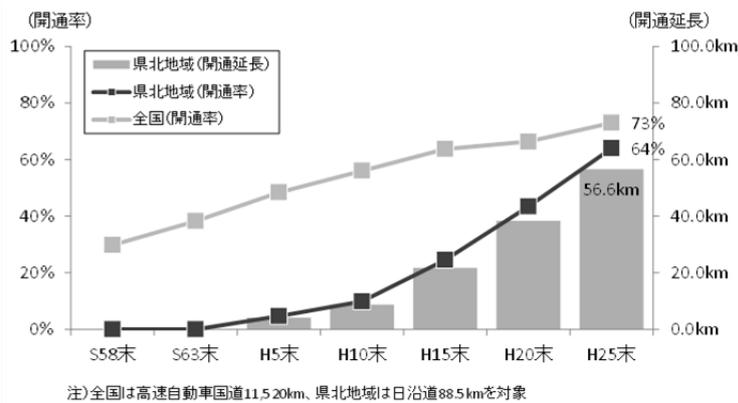
▼秋田県における高速道路の整備経緯



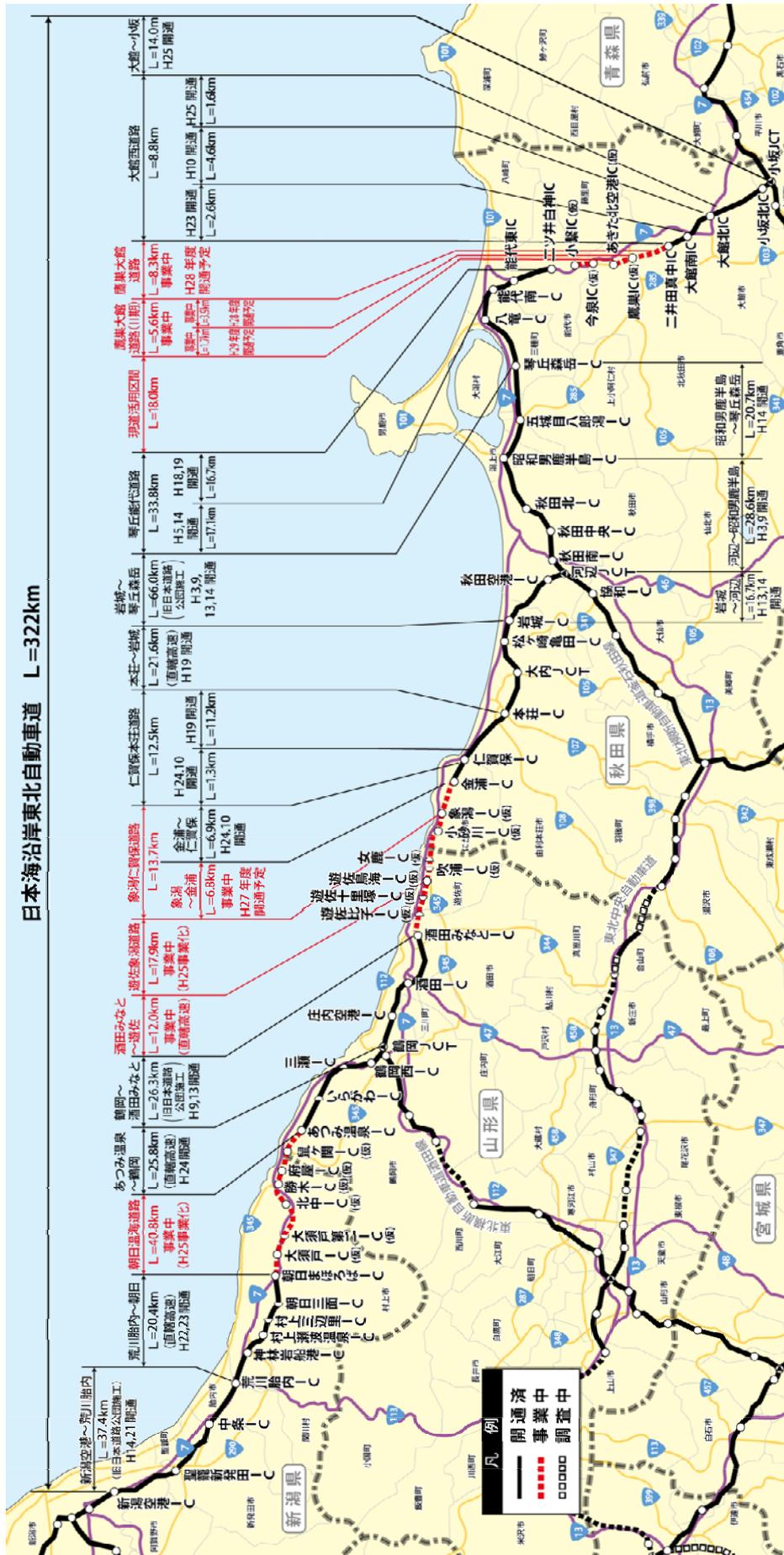
【現在】 (H25年度末)



▼高速道路開通率の推移



▼日本海沿岸東北自動車道全体状況



■早期ネットワーク効果発現を目指した現道活用方針の採用

早期に利用可能な道路、早期にネットワーク効果が発現できる道路とするため、ニツ井白神 IC～あきた北空港IC間 18kmについて現道活用方針(既存道路の局所的な改良により、安全性、定時性、速達性の向上を図る方針)を平成23年度に受け入れ、秋田県自らも現道活用区間の一部区間の整備(鷹巣西道路)を平成24年度から進めています。

▼現道活用区間の概要



《平成22～23年度 計画段階評価》

・意見聴取(知事、市町村)、ヒアリング(関係機関、企業)、住民アンケートが実施された

【主な意見聴取結果】

○秋田県知事:計画段階評価に係る「日本海沿岸東北自動車道 ニツ井白神～あきた北空港」については、現道活用案を進めることに同意します。

○その他主な意見:冬期交通の安全性を確保した、低コストで早期整備効果が発現できる道路がよい。

《平成23年8月 整備方針決定》

・沿道住民への利便性が高く、事業費が安価で、早期に利用が可能な現道活用案を選定。

◎整備方針:小繫IC(仮)～今泉IC(仮)間は別線を新設し、その他の区間は現道の局所的な改良により、安全性、定時性、速達性の向上を図る。

《進捗状況》

平成24年度～ 国交省 小繫IC(仮)～今泉IC(仮)の別線整備区間 着手(ニツ井今泉道路)

平成24年度～ 秋田県 今泉IC(仮)～あきた北空港IC(仮)の現道活用区間 着手(鷹巣西道路)

平成27年度～ 国交省 ニツ井白神IC～小繫IC(仮)の現道活用区間 着手

■日沿道の全 IC 間で整備が始まる

このような折、これまで唯一整備に着手していなかった現道活用区間のニツ井白神 IC～小繫 IC 間において、当該区間の交通の安全性と円滑性の向上を図るため、平成27年度から「国道7号能代地区線形改良」(ニツ井白神 IC 部分の線形改良事業)の着手が決定し、現道活用区間も含め日沿道の全 IC 間で整備が始まることになりました。

▼現道活用区間全体状況

